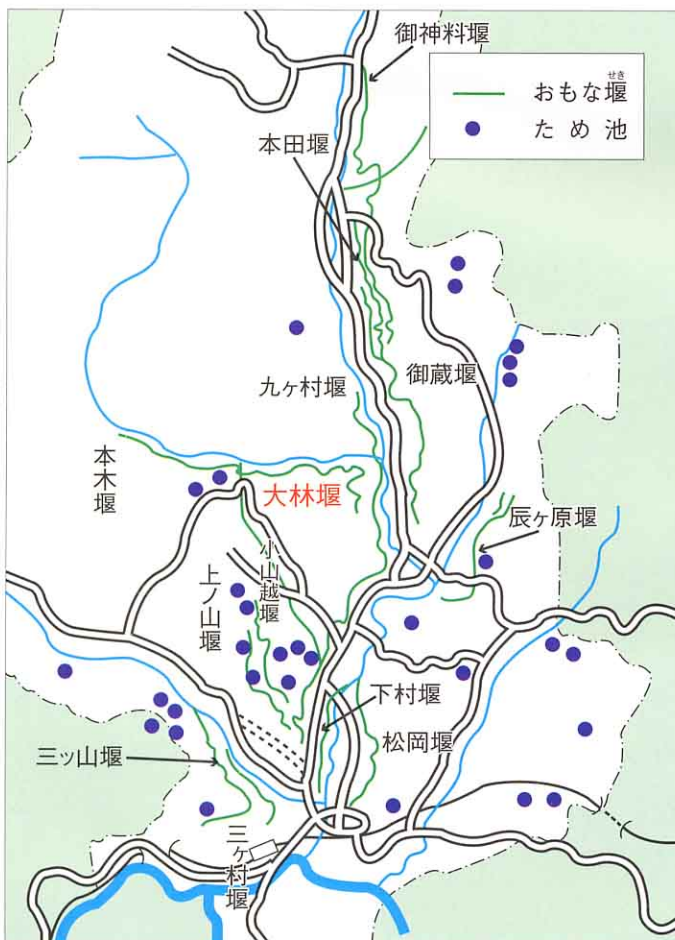


(2) 用水路をひらく

① 堰と堤 (ため池)

現在、山都町の米づくりの中心になっている三津合地区では、米づくりに必要な農業用水を、阿賀川や只見川からポンプによってくみ上げています。そのほかの地区では、一ノ戸川・早稲谷川・宮古川などの上流から長い水路をつくって引き入れています。それを堰と呼んでいます。これらの堰のほとんどは、昔の人たちが人の力だけで、長い年月をかけて作りあげたものです。また、堰によって水を引くことができないところでは、山あいていぼうに堤防をつくって雪どけ水や雨水をた

おもな堰とため池



める貯水池ちよすいちをつくり、必要なときに少しずつ流して農業用水に使っています。これを堤とかため池と呼んでいます。

米づくりには、このような堰や堤 (ため池) がとてもたいせつであり、なくてはならないものです。昔からそれをつくり、守り続けてきた祖先そせんの努力によって、今の山都町の米づくりがなりたっているといえます。